

平成31年度  
環境活動レポート

(平成31年4月～令和2年3月)

エコアクション21



有限会社リベラル

発行 令和2年6月8日

## 目 次

経営環境方針	2
【1】登録事業所の概要	3~7
【2】中長期目標	8
【3】主な環境負荷実績	9
【4】平成31年度環境経営目標とその実績及び平成31年度目標	10
【5】平成31年度の主な環境活動計画と実績結果	11
【6】平成31年度の活動の取組評価と令和2年度の取組	12
【7】平成31年度環境関連法規等の遵守状況、法違反、訴訟等の有無	13

# 有限会社リベラル

## 環 境 経 営 方 針

有限会社リベラルは、恵まれた自然と雄大な海に囲まれたここ奄美大島の地にあつて、離島における企業の責任を認識し、積極的に環境保全に取り組み、地域社会に信頼される企業で在り続けるため、具体的な目標を持って事業を推進して参ります。

### 〈行動指針〉

1. 環境法令・条例等の法的要求事項やその他の要求事項を遵守します。
2. 環境負荷のかからないリサイクル技術・廃棄物処理を研究し開発していきます。
3. 省エネルギー・資源の有効利用を考え、環境負荷削減に取り組みます。
  - (1) 車輜及び設備の電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
  - (2) 受託一般・産業廃棄物の3R（減量、再利用、再生利用）の推進
  - (3) 水資源の節水
  - (4) 化学物質の適正管理の徹底
  - (5) 環境配慮事業の推進
  - (6) 食品廃棄物のリサイクルの推進これらについて、環境指針・活動計画を定め、定期的に見直し、継続して改善していきます。
4. 事故・災害を未然に防ぐための対策を確立し、遂行していきます。
5. 環境保全の為の従業員教育を積極的に行い、環境経営方針を社外へ公表します。
6. 地域社会の環境経営活動への積極的参加と地域環境保全の推進に努めます。
7. 施設内の3S（整理・整頓・清掃）の推進に努めます。

制定日：2014年1月10日

改定日：2019年6月19日

代表取締役 **前園 裕史**

## 【1】登録事業所の概要

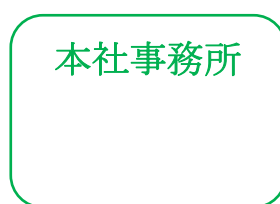
1. 名称 有限会社リベラル
2. 所在地 (本社) 〒894-0024 鹿児島県奄美市名瀬井根町3-7  
TEL0997-54-2389 FAX0997-54-2516  
HP <http://www.liberal-amami.com>  
E-mail [office@liberal-amami.com](mailto:office@liberal-amami.com)  
〒894-0000 鹿児島県奄美市名瀬伊津部字古道 1193-3  
TEL0997-52-3336 FAX0997-52-3363
3. 代表取締役 前園 裕史
4. 環境管理責任者及び環境事務局連絡先  
環境管理責任者：武田 陽平 環境事務局：恵 瑞代  
環境事務局 E-mail [liberal-factory@ark.ocn.ne.jp](mailto:liberal-factory@ark.ocn.ne.jp)  
環境事務局連絡先：TEL0997-54-2389 FAX0997-54-2516
5. 事業内容
  - ・一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物収集運搬業
  - ・一般廃棄物処分業（圧縮・梱包）
  - ・産業廃棄物処分業（中間処理：破碎・乾燥減量化）  
（平成28年優良産廃処理業者認定）
  - ・特別管理産業廃棄物処分業（焼却）
  - ・飲食事業
6. 事業規模 創業：平成9年1月  
資本金：3百万円  
従業員：正社員10名・パート8名  
※R2年4月時点  
売上高：98百万円（平成31年1月1日～12月31日）
7. 環境管理体制



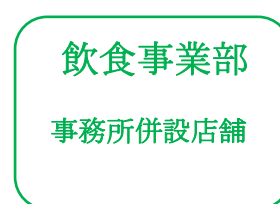
### 登録範囲



対象範囲



対象範囲  
3



対象範囲

## 8. 事業許可の内容

### 8-1 環境事業部

#### ①一般廃棄物収集運搬業 第30号

許可年月日：平成31年3月31日 有効期限：平成33年3月30日

事業の範囲：古紙、廃プラスチック類、金属くず、非金属、木くず、繊維くず、動植物性残渣（生ごみ）、動物性固形不要物、動物のふん尿、動物の死体、ガラスくずコンクリートくず及び陶磁器くず

#### ②産業廃棄物収集運搬業 許可番号04619046560号

許可年月日：平成28年2月23日 許可の有効期限：平成35年2月22日

事業の範囲：廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物を含む）、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、がれき類（石綿含有産業廃棄物を含む）、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、紙くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、木くず（石綿含有産業廃棄物を含む）、繊維くず（石綿含有産業廃棄物を含む）以上13種類（特別管理産業廃棄物であるものを除く）の収集及び運搬（積替え又は保管を含む）

#### ③特別管理産業廃棄物収集運搬業 許可番号04669046560号

許可年月日：平成28年2月23日 許可の有効期限：平成35年2月22日

事業の範囲：廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類又は次のものを含むことのみにより有害なものに限る）、廃酸（水素イオン濃度指数2.0以下のもの又は次のものを含むことのみにより有害なものに限る）、廃アルカリ（水素イオン濃度指数12.5以上のもの又は次のものを含むことのみにより有害なものに限る）、汚泥、感染性廃棄物 以上5種類の収集及び運搬（積替え又は保管を含む）

#### ④特別管理産業廃棄物処分業 許可番号04670046560号

許可年月日：平成31年3月12日 許可の有効期限：令和6年3月11日

事業の範囲：中間処理（焼却） 産業廃棄物の種類：感染性産業廃棄物

#### ⑤一般廃棄物処分業 奄美市環第165号

許可の年月日：令和元年5月17日 許可の有効期限：令和3年5月16日

取扱いの種類：古紙（段ボール・新聞・雑誌・牛乳パック）、廃プラスチック類（ペットボトル・容器プラ）、金属くず（アルミ缶・スチール缶）

処理業務の種類：一般廃棄物処分業（圧縮・梱包）

#### ⑥産業廃棄物処分業 許可番号04622046560号

許可の年月日：平成28年2月20日 許可の有効期限：平成35年2月19日

事業の範囲：中間処理（乾燥・減量化）産業廃棄物の種類：廃プラスチック類（紙おむつに限る）  
中間処理（破碎）産業廃棄物の種類：廃プラスチック類、ゴムくず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず、木くず、繊維くず

### 8-2 飲食事業部

#### ①営業許可証 指令 名保 第24号の456

許可の年月日：平成25年3月15日 許可の有効期限：平成31年4月31日まで

営業所の名称 浪速ひとくち餃子チャオチャオ 奄美井根店

営業所の所在地 鹿児島県奄美市名瀬井根町3番7号

## 9. 施設等の状況

- ・廃プラスチック類の乾燥・減量化施設

: 350kg/日

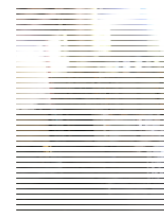


- ・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎処理施設 : 6.4 t/日

廃プラスチック類、ゴムくず、紙くず、木くず、繊維くずの破碎施設 : 廃プラスチック類 1.72 t/日、ゴムくず 0.71 t/日、紙くず 0.80 t/日、木くず 1.58 t/日、繊維くず 0.33 t/日



- ・感染性産業廃棄物の焼却施設 : 10.8kg/時



- ・収集・運搬車

10t平ボディ1台、10tドライバン1台、4tユニッククレーン1台、4tパッカー2台、2tバンパワーデッキ付き1台、2tワイドバンパワーゲート付1台、2t平ボディパワーゲート付1台、1tバン1台



## その他施設

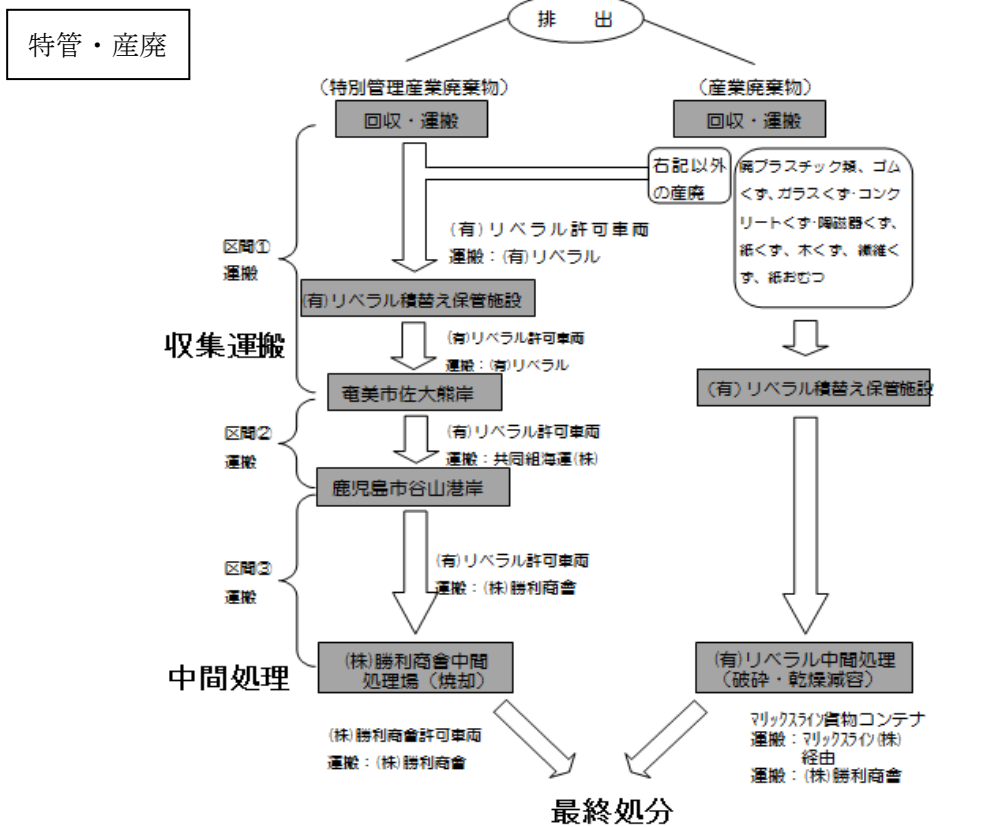
パワーショベル1台、フォークリフト1台、クランプ式フォークリフト1台



## 10. 年間処理実績（平成31年度：H31年4月～R2年3月）

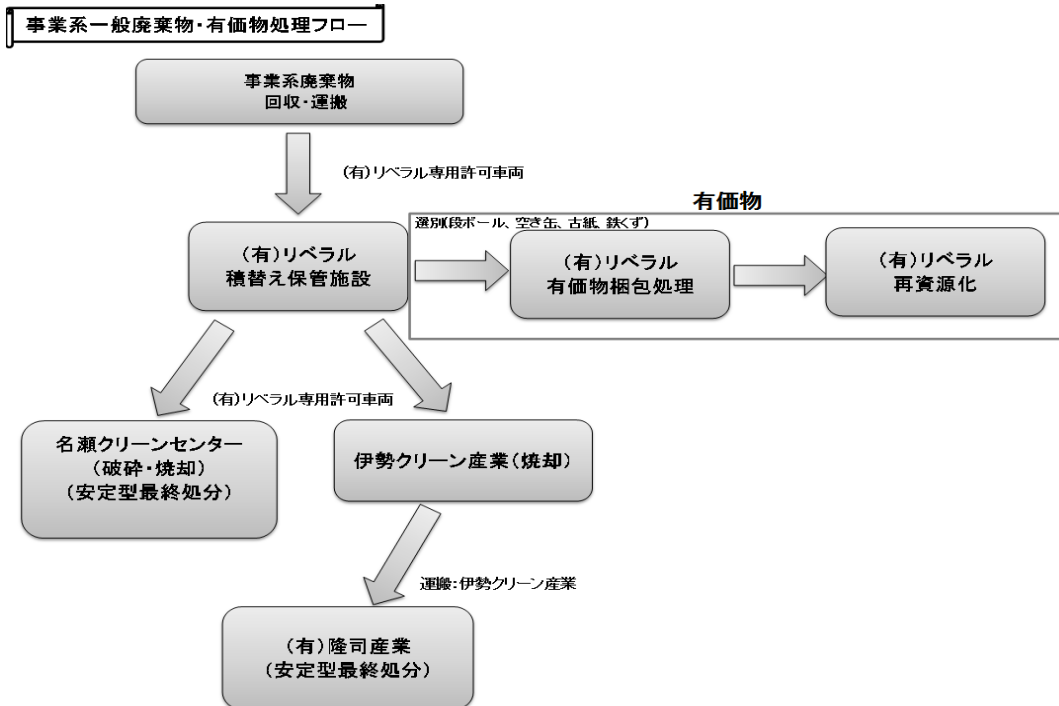
産業廃棄物収集運搬量	: 167 t
産業廃棄物処分量	: 111 t
特別管理産業廃棄物収集運搬量	: 149 t
一般廃棄物収集運搬量	: 184 t
一般廃棄物処分量	: 183 t

# 産業廃棄物処理フロー



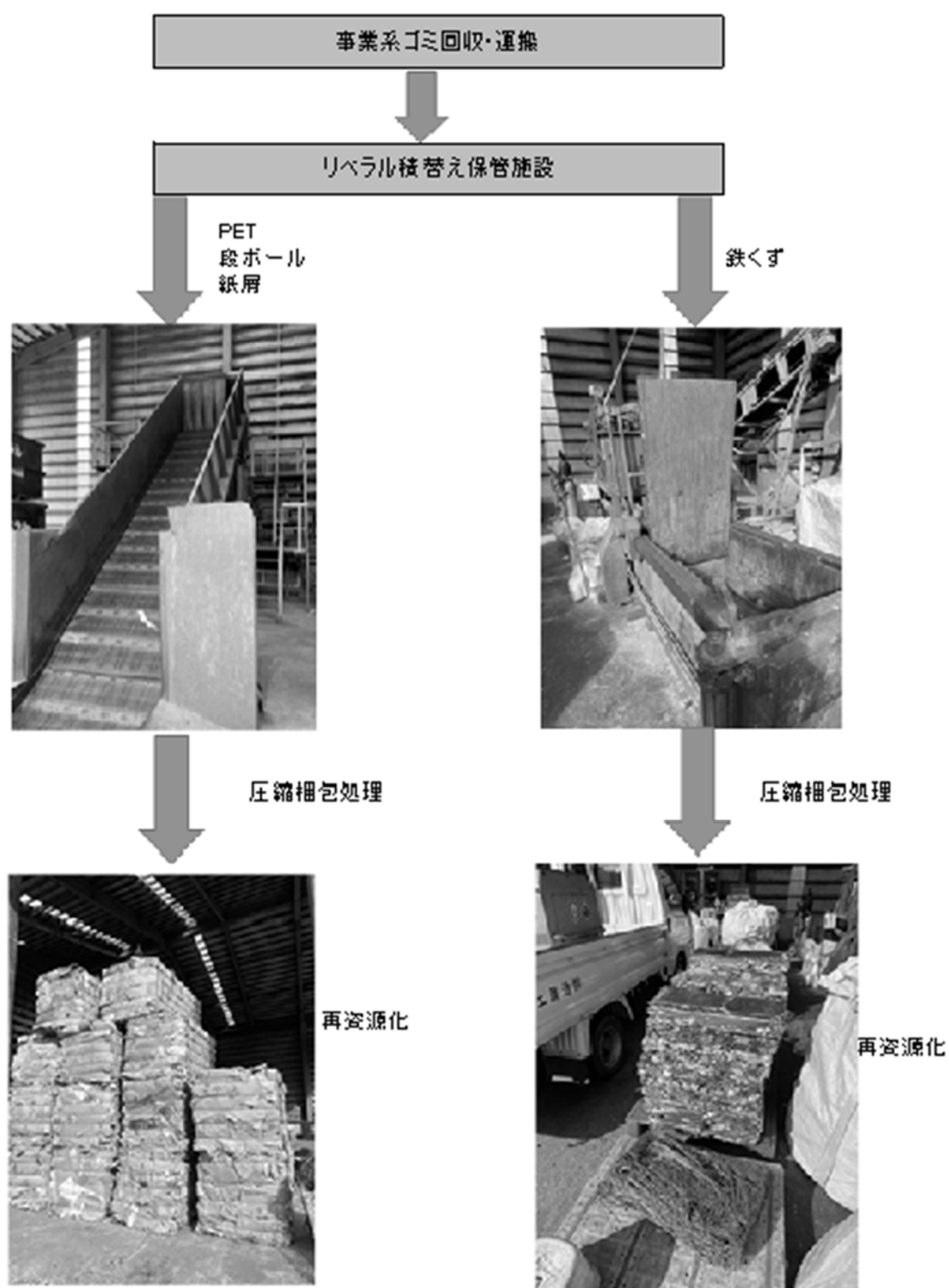
1	(株)イー・アール・シー高城	管理型埋立	産業廃棄物・特別管理産業廃棄物
2	ニシモロ開発(株)	管理型埋立	産業廃棄物・特別管理産業廃棄物
3	(株)エスプレス大分	中和処理	特定処理が必要な薬品等(毒・劇物等)
4	鹿児島県環境整備公社	管理型埋立	産業廃棄物・特別管理産業廃棄物

## 事業系廃棄物・有価物処理フロー





## リベラル有価物中間処理フロー





## 【2】 中長期目標 環境事業部

項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
		基準値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量 (電力) ※1	kg-CO <sub>2</sub> /年	13624	13487 -1%	13351 -2%	13215 -3%
二酸化炭素排出量 (燃料) ※1	kg-CO <sub>2</sub> /年	60,335	59731 -1%	59128 -2%	58525 -3%
一般・事業ごみ排出量	k g/年	140	138 -1%	137 -2%	135 -3%
水道使用量	m <sup>3</sup> /年	248	245 -1%	243 -2%	240 -3%
中間処理残渣物	杯	1603	1586 -1%	1571 -2%	1554 -3%
化学物質適正管理	回	12	12	12	12
地域清掃	回	12	12	12	12

※1 車両の増加により基準値を 29年度の 60339kg-co2 に設定

### 本部及び飲食事業部

項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	令和 2 年度
		基準値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量 (電力)	kg-CO <sub>2</sub> /年	24909	24659 -1%	24410 -2%	24161 -3%
一般事業所ゴミ排出量	k g/年	1541	1525 -1%	1510 -2%	1494 -3%
水道利用量	m <sup>3</sup> /年	617	610 -1%	604 -2%	598 -3%
食品リサイクル率	%/年	38%	42% +4%	44% +6%	46% +8%

(\*) 飲食事業部からの平成 28 年度廃棄物排出量は、1.5 t で食品廃棄物リサイクル率は 15.2% (廃油のバイオディゼル燃料化) である

### 【3】 主な環境負荷実績

項目	単位	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
二酸化炭素排出量 (電力) ※1	kg-CO <sub>2</sub> /年	38,533	35,043	37,332
電力使用料金	円	2,540,117	2,311,650	2,475,778
太陽光発電電気売却額	円	433,248	371,602	323,756.
二酸化炭素排出量 (燃料)	kg-CO <sub>2</sub> /年	60,335	63,418	74,243
燃料使用料金	円	1,916,654	2,536,564	2,691,294
一般・事業ごみ排出量	kg/年	1,681	1,302	1,155
食品リサイクル率	%	16	21	23
水道使用量	m <sup>3</sup> /年	979	910	830

※1 九州電力(株)実排出係数 0.462 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (H28年度)で算出

#### 【4】平成31年度環境目標とその実績

平成31年度は、29年度を基準値とし、目標と計画及び実績について評価を行った環境事業部

項目	単位	基準値 平成29年度	平成31年度		
			目標値	実績値	評価
電力の削減	kg-CO <sub>2</sub>	13624	15399 +13%	16300 +7%	×
車両設備の燃料削減	kg-CO <sub>2</sub>	60335	63418 +5%	74243 +17%	×
事業所ゴミの削減	kg	140	137 -2%	125 -10%	○
中間処理残渣の抑制	杯	1,603	1,571 -2%	1,950 +20%	×
水使用量削減	m <sup>3</sup>	248	276 +10%	242 -2.4%	○
化学物質適正管理確認	—	毎月一回	毎月一回	毎月一回	○
施設及び周辺環境美化活動	回	12	12	12	○

#### 本部及び飲食事業部

項目	単位	基準値 平成29年度	平成31年度		
			目標値	実績値	評価
電力の削減	kg-CO <sub>2</sub>	24909	24410 -2%	21032 -27%	○
食品リサイクル率の向上	%	38	44 +6%	23	×
水使用量削減	m <sup>3</sup>	617	604 -2%	588 -5%	○

- 車両、電気、水道では人員や設備の増加により目標値の達成が困難になったため状況に応じて新たに目標値を設定しなおした
- 車両設備の燃料に関してはBDFの車両への使用が前年度より少なく軽油の購入量が増えたのが原因と思われる
- 中間処理残渣物は投入量が増え稼働回数が増加した排出量が増加したため目標値を稼働回数基準に設定した

## 【5】平成31年度の主な環境活動計画と実施結果

方針	目的	活動内容	実施結果	
一酸化炭素排出量削減	電力の削減	①冷暖房使用を極力休憩時間に限る	○	
		②構内不要ヤードの消灯	○	
		③休憩時間の工場内全消灯	○	
		④休憩時間外の休憩室の消灯	○	
		⑤各ポイントへ節電の表示	○	
		⑥パソコンの省電力設定	○	
		⑦圧縮梱包機のコンベヤの最小限運転	○	
		⑧乾燥減容機の適正稼働	○	
	車両・設備の燃料費削減	(車両)		
		①停車時でのアイドリングストップ	△	
		②車間距離を取り、急加速・急発進をしない	○	
		③冷暖房を控えめにする	○	
		④BDF(バイオディーゼル)燃料使用の促進	△	
		⑤運行前点検の100%実施	△	
		(設備)		
		⑥運転曜日・回数を決め、効率よく運転する	○	
⑦運転時間短縮の為、投入量を一定に決める	○			
⑧最適運転を維持する為、定期メンテナンスを怠らない	○			
廃棄物排出抑制	事業所ごみの削減	①使用済用紙の裏面再利用(メモ帳等)	○	
		②ミスコピーの防止	○	
		③自社ゴミの分別徹底	○	
		④自社から出る資源ごみの100%リサイクル化	○	
	中間処理残渣の抑制	①機器の定期メンテナンスを確実に実施する	○	
		②運転時間を適正に守る	○	
		③燃焼時間の設定を極力変えない	○	
		④投入量は変えず一定量を守る	△	
節水資源の削減	水資源の使用量削減	①水道計量メーターの取付け	○	
		②蛇口流量の調整	○	
		③各ポイントへ節水の表示	○	
		④高圧洗浄機の導入	○	
物化学	適正管理	メタノールが決められて場所で適正に保管されているか	○	
地域貢献	施設及び周辺清掃活動	①工場内搬入物の整理整頓及び物品の定物定位	△	
		②工場内一斉清掃 月/1回	△	
		③工場外周辺清掃 月/1回	△	

○：実施 △：一部実施 ×実施不足

・車両・設備の燃料削減

BDF使用の声かけ、日常点検の実施を密に行っていく

・水資源の節水

紙類購入の際はリサイクル製品・エコマークのついた製品の導入を行っていく

・地域貢献

今年度は工場内外の清掃を声かけの不足で月1ペースで出来なかった

## 【6】平成31年度の活動の取組評価と令和2年度の取組

### 【平成31年度の活動実績の評価】

- 電力削減に関して、飲食事業部は目標を下回ることに成功したが、環境事業部は7%程の未達となってしまった  
原因は乾燥減容器の運転回数の増加、BDF精製機の増設等が挙げられる  
令和2年度5月から乾燥減容器の台数も増えるため、新たに目標値を設定しなおして各設備の適正運転を徹底する
- 燃料の削減に関しては、焼却炉の稼働や炭化炉の稼働数の増加により目標を設定しなおすも+17%の未達となった  
BDFの車両への使用を推奨し、改善をはかりたい
- 水道使用量に関しては、環境事業部では高圧洗浄機の使用を徹底し、より節水を心がける事で目標の数値を下回る事に成功した。飲食事業部では12%程目標値を上回った。
- 自社から排出される廃棄物については徹底的に分別されており、印刷物等の再利用も実行されていた。  
今年度も引き続き周知・実行させ、継続して削減を進めて行く。
- 施設内の月一回の一斉清掃及び、定期的な草刈りを定期的に来たとはいえないため、今年度は月初めのスケジュール調整で日程を確定させて行いたい
- 化学物質の保管については毎月一回のチェックを規定とし、月ごとにチェック回数を記録して行く
- 中間処理残渣物は目標値を稼働数・投入量の増加で目標値を上回ったが、次年度からは目標値を稼働数を基準に設定しなおしたい
- 食品リサイクル率については、生ごみの減量化を行い、目標の42%には届かないものの、去年度より2%向上し23%となった

### 【令和2年度の取り組み】

燃料部門、電力部門は焼却炉の本格稼働で灯油の使用割合が大幅に増え、乾燥減容器、BDF精製機の台数も増えるため目標値に抑えることが難しいため新たに目標を設定したうえで各設備の適正運転を進めていく

【7】平成31年度環境関連法規等の遵守状況、法違反、訴訟等の有無  
 法令義務を受ける環境関連法・条例などは下記のとおりです。

法令・条例名	該当する設備・項目	要求事項
廃棄物処理法	産業廃棄物収集運搬業	許可・更新
	特別管理産業廃棄物収集運搬業	
	産業廃棄物処分業	
	一般廃棄物収集運搬業(奄美市)	
	一般廃棄物収集運搬業(龍郷町)	
	一般廃棄物処分業	
	産業廃棄物処理委託契約書	契約書の保管・更新
	収集運搬実績報告書・処理実績報告書	年度末報告・提出
	紙マニフェストの保管	保管・適正管理
	自転車による運搬時の表示・書類携行	表示・携行
毒劇物取締法	化学物質に関する環境法規の遵守	施錠管理・定物定位・盗難・紛失防止
浄化槽法	保守点検・年1回の法定水質検査を受検	法定検査受検・定期点検
食品リサイクル法	外食事業	食品リサイクル率の向上

環境関連法規制等の順守状況を評価した結果、環境法規制等の逸脱がありません。  
 法的違反や訴訟、苦情はありません。(令和2年4月現在)